

# 感謝を伝えるお葬式とごはん その2

今回は料理をふるまうタイミングや意味についておはなししましたので、引き続き、お葬式とごはんについてのおはなしをします。

## 亡くなった人と飲食をする？

葬儀では、お亡くなりになった人と今までと同じようにやっていたことを一緒にする・・・という行為が重要な意味を持ちます。例えば、一緒に寝る、時間を過ごす、陰膳（ご飯をお供えする）、そして一緒に飲食を共にすることなどです。その食事についても全国様々で、これで死者とお別れと区切りをつける「ワカレメシ」や、出棺前に飲食をして力をつける「チカラメシ」などと呼ばれるものもあるようです。



## 料理の内容は？

高知では主に皿鉢料理が振る舞われますが、最近は重ね折りなどのお弁当タイプも多くなってきました。葬儀や四十九日、一周忌などの法要後に振る舞うお料理は、皿鉢やお弁当でないといけないことは全くありません。最近はレ



ストランでお食事するケースも多くなってきております。

また、故人が焼肉が好きだったので焼肉店に行く、中華が好きだったから中華料理店に足を運んだりなどのケースもあります。

お料理を振る舞うということは、故人を偲んだり感謝の気持ちを伝える場でもありますので、こういうパターンも今の時代は全く問題ないのではないかと思います。



また、大勢で集まって飲食を控えたいという方や、人数が全く把握できないという方には、料理に代わるお取り寄せギフトの商品なども出てきております。

受け取った方は、各自で好きなものをお取り寄せができるという物になっておりまして、今はこのような物で代用も可能です。当社でも対応可能です。

以上のように、食事には「感謝の気持ち」というものが込められています。

食事の場では故人についてのお話や思い出話、ひさしぶりにお会いしたご親族の方々とのお話に花が咲くことでしょう。

もう一度、葬儀に関する「食事」というものを見直す機会があってもよろしいのではないかと思います。



# 心記想伝

～今の時代ならではの  
コミュニティの創造と探求～

以前より私達は、「ご縁の大切さ」についてお伝えしておりますが、昨今の様々な諸事情のなかで、見送る人の数、見送る人たちのお葬式までにかかる時間が減少している事実を通して、これからあるべき姿のお葬式において「命の繋がり」とは何であるかをちゃんと認識をしたうえで、打合せをさせていただくことが重要であると考えております。



話しは少し変わりますが、昔のお葬式といえば、自宅で行うことが当たり前であり、隣近所の方々が手伝い、様々なご縁のある方々が参列し、料理やお酒を振舞い、思い出話を語り、家の周りには花輪が並び、寺院関係の方を先頭に葬列を組んで墓場まで・・・それが当たり前の時代から、徐々に、隣近所の方々の手伝いが無い、ご縁のある方々が参列しない、お料理やお酒を振舞うことが減少する、形式だけの葬式で何も思い出に残らないというスタイルもある中で、はたして葬式のゴールとは？（決して正解となる答えがあるわけではありませんが）

昔のお葬式の時代背景を考えると、家族2世帯～3世帯同居は普通であり（因みに3世帯はこの約30年余りで45%から10%に減少）自営業世帯も多く存在し（漁業、農業を含む）子供が家族を手伝い親の背中（苦勞）を見て育ち、必然的に地域でのコミュニティも増え、強い結束力が出来ていた・・・（モノクロで出てくる風景や時代にも思えてきますが）昔の時代のように戻るかと言えば、叶わないのが現実とは思いますが、昔のお葬式の良かった点を何か一つでも引き継ぐもしくはカスタマイズ出来ないものかと、日々考え勉強させていただいておりますが、変わらないのは「家族旅行に行く、家を建てる、車を買う」かのように、決して欲求や物欲のようなものではなく、出来ることならば避けて通りたいのが常でありながらも、いつかは経験をしなければいけないことです。

本来であれば、お葬式とはご家族（特に社会経験のない子供様やお孫様）の人生に大きく影響を与える一大エピソードであったものが、親子間でも艱難辛苦を共にしていない・・・故に身近な人が亡くなっても泣かない葬儀が増えつつあり、故人様への尊厳や感謝の念を忘れてしまうことで、自然に出来ていた死生観の育成にも少なからず影響をもたらしているのではないかと思います。

そのうえで、今、私達に求められていることは・・・形式だけの葬式をご提案することではなく、少数のご参列であっても「感謝で見送る葬式を創造し提供する」こと、そのためにまずは故人様を頂点に考え、一緒に時間を共有させていただき、ご家族様との繋がり、幼き頃の思い出、大切な記念日、一生懸命にされていたこと、格言や趣味をご確認のうえ、「その人」にしかない姿を可視化

させ、集まった方、ご事情があって参列が叶わなかった方にも、しっかりと偲び見送られて良かった・・・そんな時間（とき）をあらためて思い返す時間があり、その先にも「感謝で見送る葬式」があったからこそ、この先にもつながる皆様のご縁があることを思い描き、微力ではありますが、小さくても強い絆のコミュニティの創造と貢献につとめていきたいと考えております。

